

# 新寄贈品展2 北代遺跡の縄文土器

## 1 はじめに

今回の展示は、令和5年度に富山市へ寄贈された資料244点の中から、縄文時代の土器や土製品、石器92点を紹介します。寄贈資料は、市民の方が昭和40年ごろ北代遺跡内で採集されたものです。寄贈資料には、縄文土器のほかに弥生土器や奈良・平安時代の土師器・須恵器などもありますが、今回は多数を占める縄文土器などを取り上げました。

## 2 北代遺跡のあらましと寄贈資料の採集場所

北代遺跡は、明治40年、吉田文俊により発見され、大正15年に刊行された富山考古学会初代会長早川荘作の著作『越中石器時代民族遺跡遺物』で紹介されると、縄文時代の土器や石器が拾える良好なフィールドとして、広く知られるようになりました。

昭和59年1月には、縄文時代中期後半の集落立地や集落構造の解明にとって貴重な資料を提供する遺跡であり、北陸地方の縄文文化研究に欠くことのできない重要な遺跡として国史跡に指定されました。史跡指定後、平成8年から3か年をかけ、土葺きの復元竪穴建物や復元高床建物、ガイダンス施設などを整備し、平成11年4月に富山市北代縄文広場としてオープンしました。今年4月には開場25周年を迎え、また、国史跡指定40周年の節目の年にもあたります。

寄贈された方からの聞き取りによると、寄贈品の採集者であるお父様は、昭和37年富山大学が行った学術調査に立ち会われるなど遺跡や考古学への関心が高い方と聞いています。この調査地は、現在の縄文広場内の南斜面になります。

今回の寄贈資料は、お父様が勤務の傍ら、現在の復元建物3の付近に所有していた畑で、農作業の際に採集されたとのこと（図1）。

この場所は、北代遺跡の縄文時代中期集落の中心部にあたり、採集された土器は集落で使われたと考えられます。

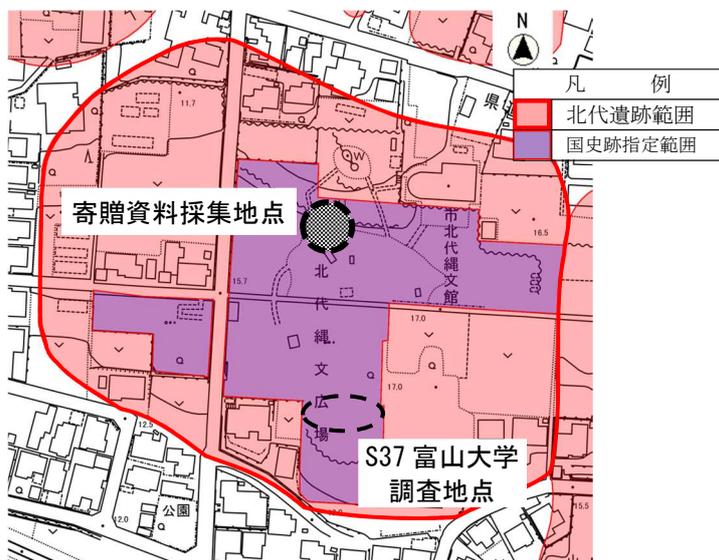


図1 寄贈資料採集地点位置図

## 3 展示品の解説

### (1) 縄文土器・土製品

展示した縄文土器・土製品は81点あります。寄贈資料の時期はおおむね縄文時代中期中葉から晩期までに分けられます。

寄贈資料で最も古い時期の土器は、縄文時代中期中葉の上山田・天神山式の土器で、平成9年度に発掘調査をおこなった70号住居跡から出土した土器と同じ時期になります。

土器の表面に半裁竹管や粘土紐で描いた渦巻きが特徴です。

寄贈資料で最も点数が多いのは、縄文時代中期後葉の串田新式の土器で、北代遺跡の縄文集落が最盛期だった時期にあたります。アカガイなどの貝殻の縁でギザギザを付けた貝殻腹縁文や、沈線で広葉樹の葉の葉脈のような文様を表現した葉脈状文が特徴です。

寄贈資料の串田新式土器はさらに、口縁部の隆帯に貝殻腹縁文を多用し、四角や工字文の区画を描く串田新Ⅰ式と、波状口縁の波頂部をU字に凹ませたり、胴部に葉脈状文を施す串田新Ⅱ式の新旧2時期に分けられます。このほか、串田新式に後続する前田・岩嶺野式の土器もあります。土器表面に細い沈線で引かれた蛇行線が特徴です。寄贈資料は、縄文時代中期後葉の各時期の土器がほぼ含まれていることがわかります。

北代遺跡ではあまり見つかっていない、縄文時代後期の土器もあります。縄文時代後期前葉の気屋式土器は、角のある工具で三角形が連続した文様を施すのが特徴です。このほか斑点のような刺突文を施す土器もあります。

寄贈資料で最も新しい時期の土器は、縄文時代晩期後葉の下野式土器で、口縁部に棒状工具や指で沈線を描いたり、二枚貝の縁や草の茎で筋状に痕を付けた条痕文を施すのが特徴です。平成14年度の発掘調査では、北代遺跡の東南端斜面でこの時期の墓あるいは祭祀遺構や粘土採掘坑が見つかっています。

土器の底部には網代やササの葉の圧痕が残るものがあります。ササの葉は、北陸など寒い地域限定で土器底部の敷物圧痕として見られます。

土製品は、土偶の破片が3点あります。肩や胴体、脚の一部と考えられます。

## (2) 石器

石器には、打製石斧、磨製石斧、石錘、叩き石、磨石があります。

磨製石斧の完形品はありません。使っている際に折れて廃棄されたものが採集されたと考えられます。打製石斧は、ばち型や短冊型といった様々なかたちがあり、やはり破損したものが多いです。石錘は石のおもりのことで、網や縄を引っかける部分を打ち欠いて作り出しています。展示品は、長さ10.8cm、幅7.8cm、重さ526gの大型品になります。

## (3) まとめ

昭和59年に北代遺跡の集落中心部分が国史跡に指定されて以降、史跡範囲内は遺跡保護のため、必要最小限の発掘調査しか行っていません。

寄贈資料は、史跡指定される前に縄文時代の集落の中心部から採集された貴重な土器です。また、これまで本遺跡で出土量の少なかった後期の土器資料が増えたことによって、本遺跡の縄文時代後期を考えるための手がかりになると考えられます。(細辻嘉門)

## 4 展示品目録

番号	遺物名	番号	遺物名	番号	遺物名
1~14	縄文土器 (中期中葉)	65~68	縄文土器 (後期)	82~84	土偶
				85~87	磨製石斧
14~50	縄文土器 (中期後葉)	69~74	縄文土器 (晩期後葉)	88~89	打製石斧
				90	石錘
51~57	縄文土器 (中期末葉)	75~77	縄文土器 把手	91	叩き石
				92	磨石
58~64	縄文土器 (後期前葉)	78~81	縄文土器 底部		